

第 15 回原子力委員会定例会議議事録（案）

1. 日 時 1999 年 3 月 9 日（火）10:30～11:00

2. 場 所 委員会会議室

3. 出席者 藤家委員長代理、依田委員、遠藤委員、木元委員
（事務局等）科学技術庁
原子力局
原子力調査室 森本室長、板倉、池亀、藤原
原子力安全局
原子炉規制課 安澤安全審査管理官、戸ヶ崎、堀
吉舖専門委員

4. 議 題

- （1）日立エンジニアリング株式会社と日立ニュークリアエンジニアリング株式
会社との合併について（諮問）
- （2）その他

5. 配布資料

- 資料 1 日立エンジニアリング株式会社と日立ニュークリアエンジニアリング
株式会社との合併について（諮問）
- 資料 2 第 14 回原子力委員会臨時会議議事録（案）

6. 審議事項

- （1）日立エンジニアリング株式会社と日立ニュークリアエンジニアリング株式
会社との合併について（諮問）

平成 11 年 3 月 4 日付け 11 安（原規）第 33 号をもって内閣総理大臣より諮問のあった標記の件について、原子炉規制課より資料 1 に基づき説明があった。これに対し、

- ・日立ニュークリアエンジニアリング所有の原子炉は既に主要部が撤去されているが、法律上、廃止されるまで原子炉施設としては継続の状態にあるということか。

（原子炉規制課）昭和 50 年に解体届が提出され原子炉の主要部が撤去されて以来、廃止の手続きがとられていないことから、運転時に比べ作業量は少ないものの原子炉として適切な運営管理が行われている。したがって原子炉主任技術者もいる。

- ・原子炉を廃止するためにはどのような状態にしなければいけないのか。

（原子炉規制課）使用済燃料と放射性廃棄物を運び出した上で、建屋を含めて

更地にしなくてはならない。

- ・事業者としても本当はこの原子炉を廃止したいと考えていると思うが、放射性廃棄物の処分等が課題となって進んでいない。
- ・昭和50年に原子炉の主要部を撤去した時、デコミッショニングの研究はしなかったのか。

(原子炉規制課)撤去の際に発生した廃棄物量が少なかったことから、特にデコミッショニングの研究は行っておらず、廃棄物を保管管理している。廃棄物は200リットルドラム缶に密封して約290本を原子炉室中に保管し、使用済燃料はピンとして600本程度を密封容器に入れプール内に貯蔵している。放射能レベルは閉鎖後30年近く経っており、かなり減衰している。

- ・実状があまり世の中に知られていないが、それは規模が小さかったからなのか。

(原子炉規制課)昭和50年頃は、それ程問題ではなかった。

- ・閉鎖した理由は、住宅が増えてきたことに伴う地元問題であったと聞いている。
- ・原子炉をこれまで所有していない会社が所有することになるが、問題はないのか。

(原子炉規制課)日立エンジニアリング株式会社はこれまでもBWRのエンジニアリングをやっており、合併により関連の技術者は多くなる。

- ・今回のような原子炉の所有権の移転は初めてのケースか。

(原子炉規制課)この原子炉自体、昭和37年に日立製作所から東京原子力研究所に譲渡した際、所有権を移転している。また、昭和60年に日本原子力研究所と日本原子力船研究開発事業団、平成元年に東芝とNAIGとの合併に伴う所有権の移転があった。

等の委員の意見及び質疑応答があり、本件については引き続き審議を行うこととした。

注)本件は、原子炉設置者である日立ニュークリアエンジニアリング株式会社と日立エンジニアリング株式会社とが合併し、日立エンジニアリング株式会社が原子炉設置者の地位を承継するものである。

(2) その他

- ・環境庁の中央環境審議会で審議中の「地球温暖化対策に関する基本方針」について、環境庁から原子力委員会で説明して貰った方が良くはないかという提案があり、その方向で事務局が調整することとなった。

(3) 議事録の確認

事務局作成の資料2第14回原子力委員会臨時会議議事録(案)が了承された。

なお、事務局より、次回は3月16日(火)に定例会議を10:30より開催する方向で調整したい旨、発言があった。